

つどい

北海道偕行会全道大会

北海道偕行会の第76回全道大会を、ご来賓に北部方面総監部幕僚長・大庭秀昭陸将補を、講演会講師に前道議会議員・小野寺まさる先生をお招きして、11月4日「ネストホテル札幌駅前」で開催した。初の試みとして、現職との交流を図るべく札幌駐屯地司令（幕僚長）のご了解のもと同修親会に呼びかけたところ、有志13名の参加を得た。総員45名の大会であった。

小野寺先生の父上（故人）は防大1期生だが、先生は3期つとめられた道議在任中から安全保障・国防に関わる種々の問題を追及・情報発信してこられ、退任後の現在は「充電中」の由。「爆買いさ

れる日本の領土」の演題で話されたのは、水・食糧・レアメタル・駐屯地などに関わる土地が某国系列の企業によって全国的に買われ、そこに保守系政治家の姿が見え隠れする場合もあること、いくつかの反日団体が国連人権委員会の場で日本国内の少数民族問題などを利用して半日活动を続けていることなど、「国連を利用する日本分断活動」がマスコミにほとんど報じられないまま進行している、との論旨であった。

懇親会は、国歌斉唱、物故者9名への黙祷の後、代表世話人（自65・木村）が特に3名の会員を紹介した。陸士55期古川先輩、58期加藤先輩がそれぞれご長男を帯同して出席されたこと、また陸自一般幹部候補生に合格した北大大学院生・辻氏を祝福・激励するため招待したことを紹介し、大きな拍手が贈られた。

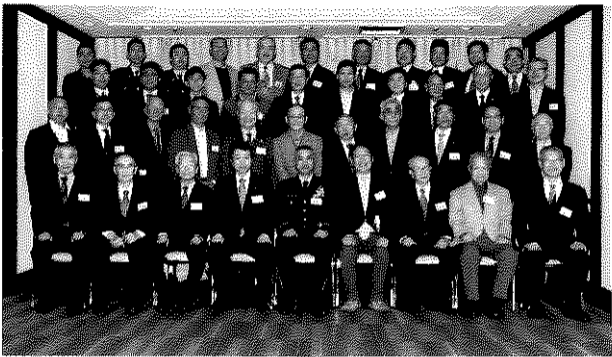
大庭幕僚長は小野寺先生の講演にも關連してご挨拶され、現行体制で自衛隊ができることには限界があるがあらゆる任務に備えるのみ、胆振東部地震での人命救助を94時間で完了しえたことは大きな成果であった、と述べられた。次いで、先の総選挙で惜敗した前衆議院議員・高木宏壽会員（自83）が、乾杯の音頭をとって懇親会に移った。

懇親会には現職の川邊2佐（通信群副群長）も参加し、旧知・初対面、老壯・青を問わず盛んな献酬と歓談が続ぎ、ご

来賓・講師をはじめ、多くの人は座る暇もないほどの様子であった。宴の最後は、北部方面隊歌と陸軍士官学校校歌を声高らかに熱唱した後、参加者中の最若手・自104北田会員の発声で万歳三唱し、大会の幕を盛会のうちに閉じた。

参加者（氏名既出者を除く）は、58家族・加藤氏、59野俣、60加藤・鎌田、61松尾・小森、自59星野、60大須賀、65吉田・横田・穴口、70末田、71庄崎、73細島、75相馬・齋藤・村上・井上、76佐々木、79梶原・末村、81牧野、85古川、91泉盛、ほかに講演会に現職幹部12名参加。

（65末村記）



平成30年11月4日 第76回 北海道借行会 全道大会 於 ネストホテル札幌駅前